

革命干渉戦争並びにフランスの兵制に関して、不正確である。

市民革命

立ち上がる人々

パリの市民は、1789年7月、国家の統制政策に反対

し、自由を求め立ち上がり、農民など社会の下積みになっている民衆と力を合わせて、革命をおこした。

新たにできた市民を中心とする議会は、人権宣言を発し、人間は自由で平等な権利をもっていること、主権は国民にあること、思想や言論の自由は人間のもっともたいせつな権利であることなどを主張した。

王政にかわった共和制の政府が国王を処刑すると、まわりの国々は、同盟してフランスを攻めた。市民からなる義勇兵は、国を守るために戦った。政府は、貴族や教会の土地を農民に分けるなどの改革を進めたが、内部の対立もあり、不安定だった。

ナポレオン

→ 1799年12月18日

市民革命

立ち上がる人々

フランスでは、絶対王政のもと、聖職者や貴族などは免税などの特権を得ていたが、農民は重い年貢に苦しめられ、商工業者も産業の自由をさまたげられていた。

1789年、国王の王政に対して、パリの市民が武器をとって立ち上がると、革命の波は全土に広がった。議会は、前文と17条からなる人権宣言(人間および市民の権利の宣言)を発し、自由・平等の権利、主権が国民にあることなどを明らかにした。そして、共和政をたて、国王を処刑した。周辺の国々は、革命をおそれ、同盟してフランスを攻めた。革命政府は、貴族や教会の土地を農民に与えるなどの改革を進めようとしたが、内部での対立もあり、政治は不安定だった。

ナポレオン

→ 1799年12月18日